

2年間に活躍 27件審査 山陽新聞体育賞選考会



山陽新聞体育賞の受賞候補について審査する選考委員
＝山陽新聞社

スポーツ界で輝かしい成績を残した郷土ゆかりの選手らに贈る「第80回山陽新聞体育賞」の選考会が6日、岡山市北区柳町の山陽新聞社であり、2021年と新型コロナウイルスの影響で選考が見送られた20年の受賞候補を合わせた計27件を審査した。

宮野欣也岡山県スポーツ振興課長、松井守県スポーツ協会専務理事、小林桂子県高体連理事長、岡山大の加賀勝上席副学長、川崎医福大の米谷正造教授ら選考委員7人が出席。委員長の角稔文山陽新聞社営業局事業本部長はコロナ禍の中で

開催された昨夏の東京五輪・パラリンピックなどに触れ、「スポーツを取り巻く環境は回復しつつあり、多くの推薦が寄せられた。率直な意見をいただければ」とあいさつした。

候補は国内外の主要大会で活躍し、県スポーツ協会や県高体連、各自治体などから推薦された岡山の18個人と7団体、2ペア。委員はそれぞれの成績について説明を聞き、意見を交わした。

受賞者・団体は27日付の本紙で発表し、29日に山陽新聞社で贈呈式を行う予定。(田井香菜子)